

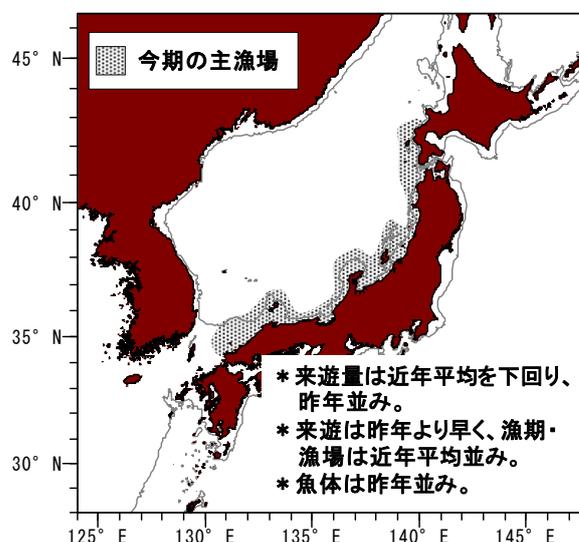
平成23年度 第1回 日本海スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成23年5月～7月)のポイント

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均を下回り、昨年並み。
- (2) 漁期・漁場：来遊は昨年より早く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：昨年並み。



* 近年は最近5年間(平成18年～平成22年)

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 新村、川村

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

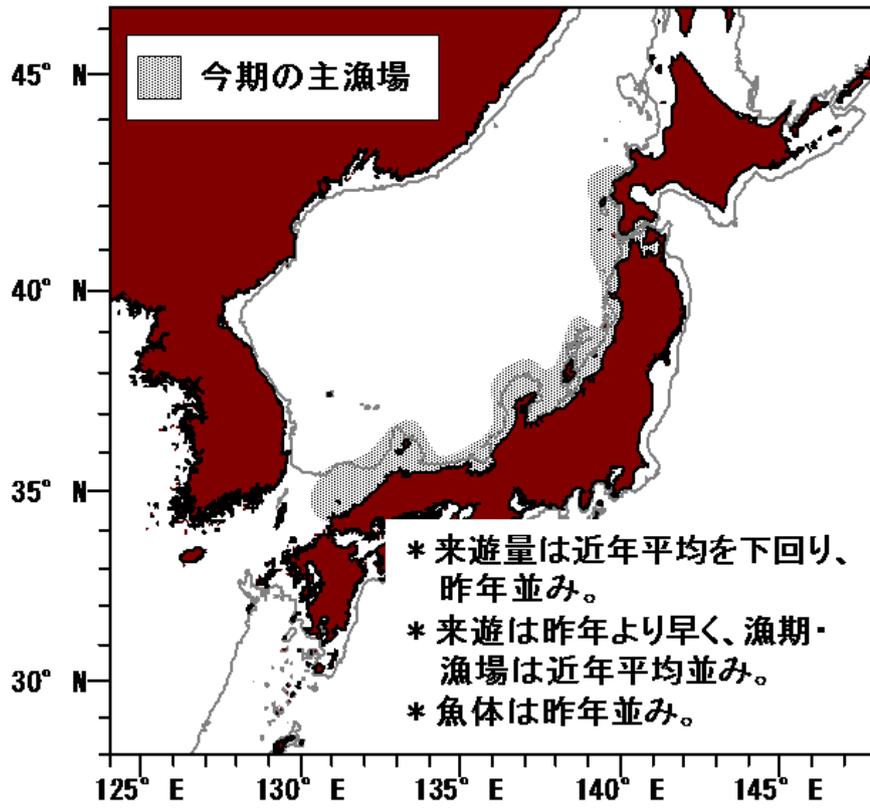
独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



平成 23 年度第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2011 年 5 月～7 月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均を下回り、昨年並み。
- (2) 漁期・漁場：来遊は昨年より早く、近年平均並み。
- (3) 魚体の大きさ：昨年並み。

* 近年は最近 5 年間(2006 年～2010 年)

I 漁況予報

日本海におけるスルメイカの資源調査結果（2010 年 10 月～11 月の日本海スルメイカ稚仔分布調査、および 2011 年 4 月のスルメイカ新規加入量調査）と漁況の経過を主要な情報として、今期（2011 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

【予測】

今期（2011 年 5 月～7 月）の日本海におけるスルメイカの来遊量は、近年平均を下回り、昨年並みと予測される。漁期の開始時期は昨年より早く、近年平均並みと予想される。魚体の大きさは昨年並み。

【情報】

- (1) 2011 年 4 月に実施したスルメイカ新規加入量の調査結果では、今期に漁獲加入すると予想される外套背長 5cm 以上のスルメイカの分布量は、近年平均を下回り、昨年並みであった。
- (2) 2010 年 10 月～11 月のスルメイカ幼生の分布調査結果では、幼生の分布密度は 1990 年代以降の水準を維持しているものの、昨年同様、かなり低い値であった。
- (3) 2011 年 3 月の日本海の水温は近年平均またはやや低めであったが、今後上昇し、予報対象期間は近年同様、「やや高め」から「かなり高め」で推移すると予測されている。
- (4) 2011 年 3 月のスルメイカ漁獲量は昨年および近年平均を上回ったが、4 月は昨年を上回っているものの、近年平均を下回っている。

II 説明

1. 調査結果

1) 4月におけるスルメイカの分布状況

いか釣り漁業では外套背長 15cm 以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、漁獲対象前のスルメイカ（主に外套背長 2cm～10cm）の分布状況を事前（4月）に把握することで、今期の漁況を予測することが可能になる。

2011年4月に実施したスルメイカの新規加入量調査^{*1)}結果（図1）では、1調査点あたりの平均採集尾数は13.2尾であり、近年平均（41.4尾）および昨年（18.6尾）を下回った。さらに、今期の漁獲対象となる外套背長5cm以上のスルメイカでは、1調査点あたりの平均採集尾数は2.3尾であり、近年平均（16.2尾）を下回り、昨年（2.0尾）並みであった（図2）。したがって、今期のスルメイカの来遊量は近年平均を下回り、昨年並みと予測される。なお、採集物の外套背長組成は昨年と同様であり、今期に漁獲されるスルメイカの魚体も昨年並みと予測される。

*1) 新規加入量調査：口径10m～12mの表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で3ノットで30分間曳網して実施。

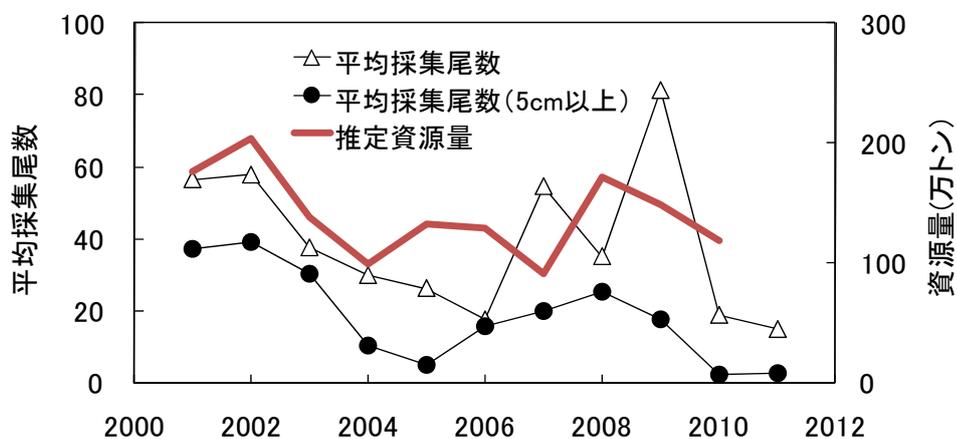
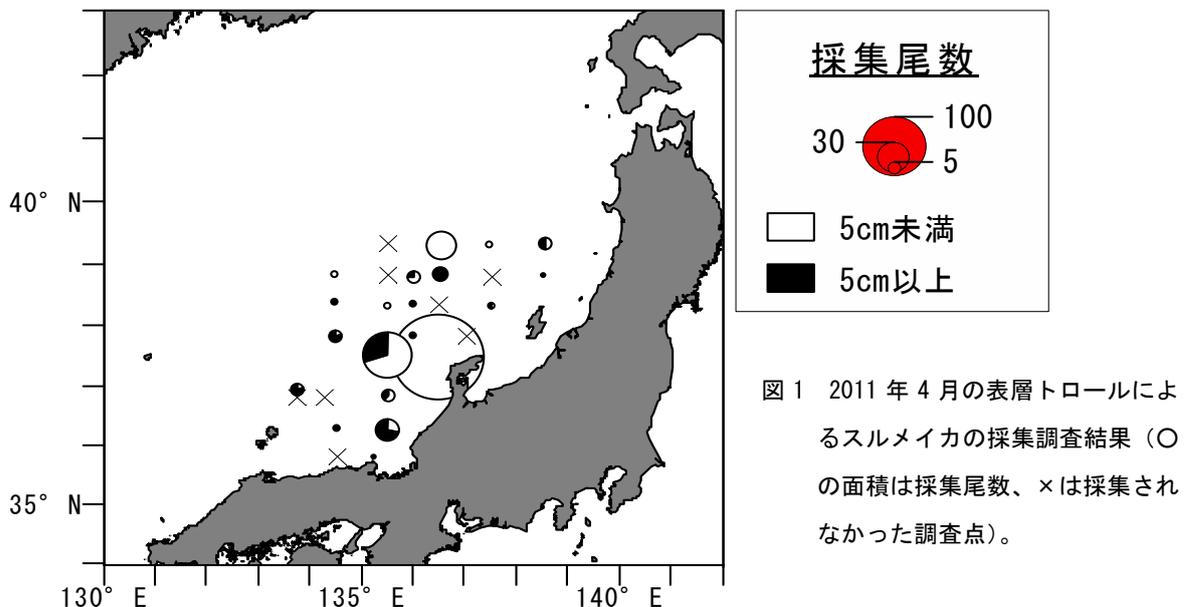


図2 表層トロール調査による平均採集尾数と推定資源量の経年変化

推定資源量は、昨年度のスルメイカ秋季発生系群の資源評価調査結果の値

2) 昨年秋のスルメイカ幼生の分布量

5月下旬～10月の日本海では、前年の秋～冬に生まれたスルメイカ秋季発生系群が漁獲される。したがって、前年秋～冬のスルメイカ幼生の分布量は、5月下旬～10月の日本海におけるスルメイカの来遊量を予測する資料となる。

2010年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査^{*2)}では、隠岐諸島から対馬海峡付近の広い海域で採集され（図3）、1調査点あたりの平均採集尾数は1.25尾であった。この値は2009年の調査結果（1.24尾）とほぼ同じであり、近年（2005年～2009年）平均（1.38尾）の91%であった（図4）。なお、幼生の分布量は2000年前後と比較して低い値であったものの、1990年代以降の水準は維持しており（図4）、1990年代以降のスルメイカの資源量水準が大きく低下する状況ではないと判断される。

*2) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット（網目0.33mm）を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって主に外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。

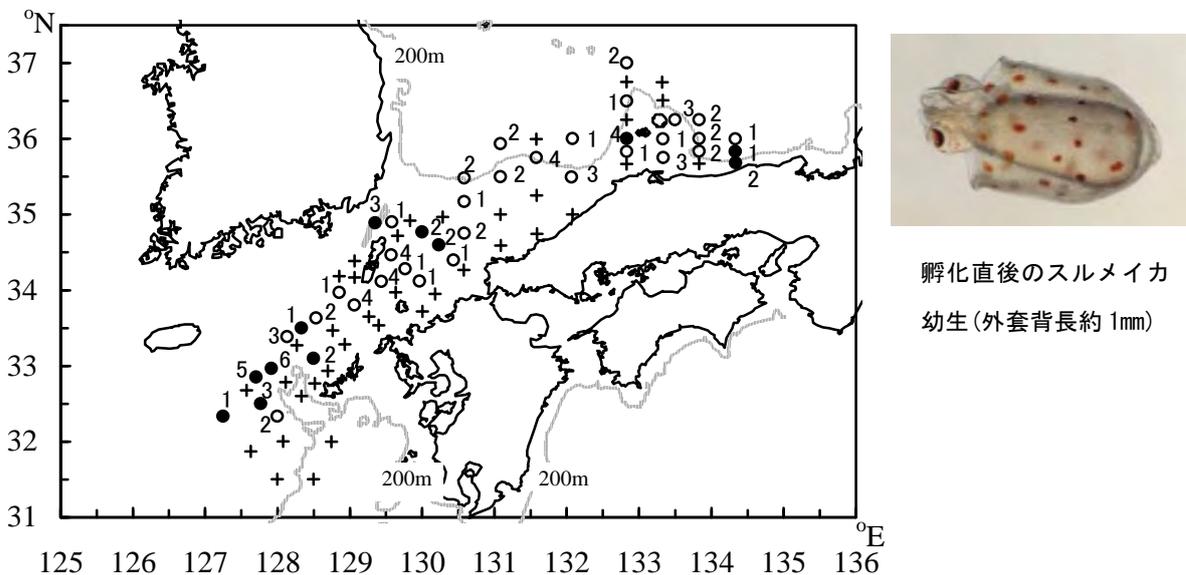


図3 2010年10月～11月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果

○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、+幼生が採集されなかった調査点、

図中の数字は各調査点における採集尾数。

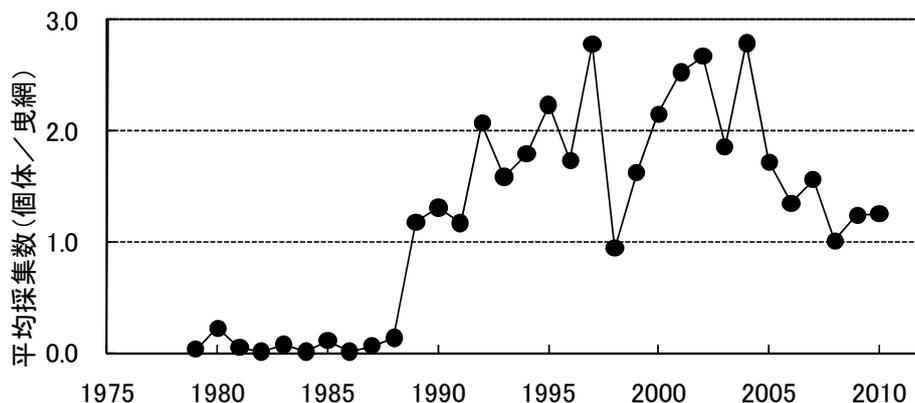


図4 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集尾数の経年変化

2. 日本海における海洋環境

平成 23 年度第 1 回日本海海況予報^{*3)}によると、3 月の表面水温は山陰沿岸域の一部で「やや低め」のほかは概ね平年並であったが、今後上昇し、予報対象期間の表面水温は、近年同様、「やや高め」から「かなり高め」で経過すると予測されている。なお、水深 50m 水温は平年並みで経過すると予測されている。したがって、各地のスルメイカ漁期の開始時期は近年平均並みと予測される。

*3) <http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr23/230406/20110406press.pdf>

3. 日本海におけるスルメイカ漁況の経過

日本海では、1 月～3 月は主に冬季発生系群が漁獲されるが、3 月中・下旬以降は春～夏に生まれたスルメイカが漁獲対象となり、山陰以西を中心に予報期間の前半（5 月）まで漁獲対象となる。

日本海西部では、冬季発生系群の南下の遅れによって 2011 年 2 月に鳥取県を中心に漁獲量のピークが見られた。その後、富山県の定置網をはじめとして 3 月まで冬季発生系群の漁獲が続き、3 月の漁獲量も本州北部で昨年および近年平均を上回り、西部日本海でも昨年を上回り、近年平均並みとなった（図 5）。しかし、春～夏に生まれたスルメイカが漁獲対象となる 4 月以降の漁況は低調となり、昨年を上回るものの、近年平均を下回る水準で経過している（図 6 に境港の例）。

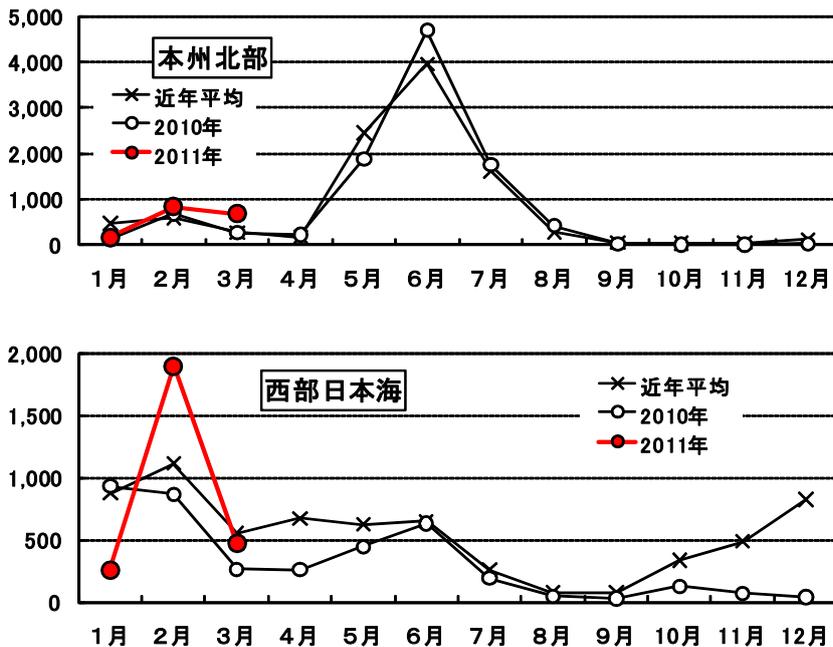


図 5 本州北部および西部日本海の 2011 年 1～3 月の漁獲量の経過（一部未集計）。

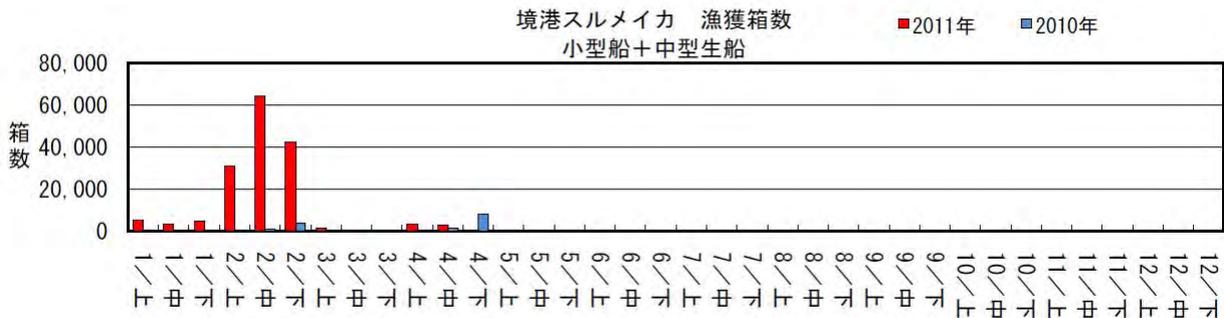


図 6 鳥取県（境港）におけるスルメイカの漁獲量 鳥取県水産試験場のホームページより抜粋

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	鳥取県水産試験場
秋田県農林水産技術センター 水産振興センター	島根県水産技術センター
山形県水産試験場	山口県水産研究センター
新潟県水産海洋研究所	長崎県総合水産試験場
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 北海道区水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所
京都府農林水産技術センター 海洋センター	